

地球市民アカデミア

(第I期生募集要項)

国際協力・国際教育リーダーシップ養成塾



【共 催】

東和大学国際教育研究所
NGO活動推進センター(JANIC)
東京YMCA国際奉仕センター

【後 援】

開発教育協議会 / (学)アジア学院 / シャプラニール=市民による海外協力の会

【会 場】

東京YMCA国際奉仕センター

募 集 要 項

開催期間: 1994年4月~1995年1月(全15回)
別途ブレ企画、ミッド企画があります。
募集対象: ①将来国際協力、国際教育の分野で活動したいという意欲を持つ人。
②原則として全国参加できる人。
参加費用: 50,000円(費用には登録費、受講料、資料代などが含まれます。合宿費用は別途がかかります。)
定 員: 30名(申し込みが30名を越える場合は、選考させていただくこともあります。)
募集締切: 第一次締切...2月25日(金)、第二次締切...3月10日(木)
最終締切...3月22日(火)
申込方法: 指定の申し込み用紙に記入し、裏面に「私の考える国際協力・国際教育」というテーマで作文を書き、下記にお送りください。費用については、申込後別途ご案内いたします。
(お申し込み・問い合わせ)
「地球市民アカデミア」事務局
〒101 東京都千代田区神田美土代町7 TEL 03-3293-7011
東京YMCA国際奉仕センター内 FAX 03-3293-7014

【共催団体紹介】

東和大学国際教育研究所

東和大学国際教育研究所は、国際問題や地球の諸課題への洞察力と判断力を有する地球市民の養成に関する研究と実践を機軸としています。また、国際協力や国際教育の調査研究にも取り組んでいます。大学附属の研究施設ではありますが、講座や研究会への参加、資料の閲覧、研究紀要への投稿等できるだけ市民に開かれた研究所を目指しています。

NGO活動推進センター(JANIC)

地球社会が直面する開発・環境・人権などの人類共通の課題に取り組む市民組織(NGO)の活動支援を目的に1987年に設立。主な活動は、NGO間のネットワークやNGO活動に関する情報の収集及び提供、広報・調査研究、人材育成などをはじめ、海外NGOとの情報交換及び協力関係の促進など。

東京YMCA国際奉仕センター

YMCAは「青少年の健全育成」「豊かな地域社会の形成」そして「平和な世界の実現」をめざしている青少年団体・社会教育団体です。世界130ヶ国以上の国々で運動を展開し、地域社会が必要としている問題や課題に取り組んでいます。国際奉仕センターでは、バングラデシュYMCAとの協力関係を通じて、援助、識字教育などの問題に取り組みながら、それらの活動を通して青少年の国際理解を高め、交流・協力活動を行うことを目指しています。

【後援団体紹介】

アジア学院

アジア学院は、アジア・アフリカ諸国から来た研修生が、農村地域社会の人々の生活向上と安定のために献身しようと、食糧の生産の基本、農村生活改善、そしてよりよいコミュニティづくりを生活体験を通して学んでいく、農村指導者専門学校です。

開発教育協議会

開発教育協議会は、日本における開発教育の推進を目的として1982年に結成された民間の連合体組織です。各地で取り組まれている開発教育をネットワークし、必要な情報を伝達し、その試みや働きを側面から支援することを役割としています。機関誌やニュースレターの発行、情報センターの設置、全国研究集会、ワークショップ、地域セミナーなどの開催を行っています。

シャプラニール=市民による海外協力の会

独立直後のバングラデシュ農村でボランティア活動をした若者達のなかから有志が継続的な協力活動を目指して1992年設立。同国の農村最貧層の人々の生活向上と自立を目指し識字学校、保健衛生、収入向上等の支援活動および災害救援を実施しています。国内では発達途上国の実情を伝え、南北問題を共に考えて行くために会報発行、講演会・セミナー、スタディツアー、出版、視覚教材製作等を行なうほか、バングラデシュの手工芸品を輸入し全国バザー等で販売しています。

「地球市民アカデミア」はこうして生まれました!

東西対立の終焉、高まる地球環境への危機感、民族紛争の激化など、世界はめまぐるしく動いています。日本の社会でも、国際協力、国際貢献に対する関心が高まり、そうした分野で働きたい人、あるいはボランティア活動を志す若者が増えています。「地球市民アカデミア」はそのような人々に、新しい切り口から学びの場を提供したいという願いから生まれました。

★共働学習を通じた新しい学びの場を求めて

従来、講座という座って講義を受けるというイメージがありました。しかし、実際に国際協力、国際教育を実践していくには、知識や情報をただ身にまとうだけでなく、それらをメッセージやアクションに変えていく必要があります。そのためには、実体験や試行錯誤を通じて受講者同士が互いに学び合う場が必要となります。「地球市民アカデミア」は、そんな今までにない新しい学びの場となりたいのです。

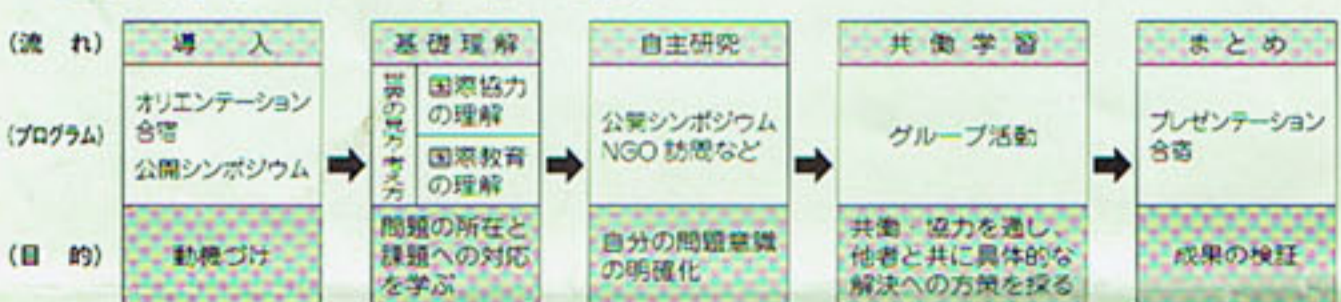
★21世紀の地球社会に求められる人間像を求めて

第三世界への「援助」に対する様々な意見からも分かるように、異なった社会状況の中、厳しい条件下に生きる人々と共に生きようとするのは、学問の枠におさまるものではありません。21世紀の地球社会に求められるのは、いわゆる開発途上と言われる国々に生きる人々を、援助や研究の対象として見るのではなく、同時代と共に生きる人間として理解し合い、共感できる力と感性を持った地球市民なのです。

「地球市民アカデミア」のゴール

この講座の目指すものは、将来国際分野での活動を志す者が、現在の社会状況を正しく理解し、自分自身が社会のために何ができるかを考えることを通じて、自分自身の価値観を問い直し、意識の変容を促していくことです。必要な専門知識や物の見方を学ぶと同時に、国際協力や国際教育に携わる人々の経験に学び、実際にNGOなどを訪問して、現実感ある国際協力・国際教育を学びたいと思います。あなた自身がなぜ国際協力、国際教育が必要であると考え、どう関わりたいのか、また何ができるのかを深く掘り下げることをめざします。さらに、これからの社会を創っていく上で大切な、他者との協力関係の築き方を共働学習します。

「地球市民アカデミア」の流れ



ブレ企画-1994年3月19日(土)「アジアで共に生きるために」 公開シンポジウム
ミッド企画-1994年9月3日(土)「地球市民として生きる」 公開シンポジウム

地球市民アカデミアのリーダーたち

| | |
|--------------------------|------------------------|
| (校長) 高見 敏弘 (アジア学院理事長) | (五十音順) |
| (講師陣) | (アドバイザー) |
| 池住 義憲 (アジア保健研修所事務局長) | 赤石 和則 (東和大学国際教育研究所) |
| 金谷 敬郎 (豊田学園女子大学教授) | 上田 啓子 (東和大学国際教育研究所) |
| 北沢 洋子 (アジア太平洋資料センター共同代表) | 上塚 直美 (東京YMCA国際奉仕センター) |
| 久保田 順 (立教大学教授) | 重田 康博 (国際協力推進協会) |
| 小松 光一 (お茶の水女子大学教授) | 奈良 昭彦 (東京YMCA国際奉仕センター) |
| 坂口 順治 (立教大学教授) | 芳賀 昭雄 (東京YMCA国際奉仕センター) |
| チャントソン・インタヴォン (交渉中) | 福沢 郁文 (シャプラニール) |
| (ラオスの子供に絵本を送る会代表) | 山西 優二 (開発教育協議会) |
| 中村 尚司 (龍谷大学教授) | 山本 俊正 (日本キリスト教協議会) |
| 西川 潤 (早稲田大学教授) | 瀧本 浩之 (NGO活動推進センター) |

1年間のカリキュラム

| 回 | 月/日 | テ マ - 内 容 |
|---|-------------------|---|
| ① | 4/15(金) ~17(日) | オリエンテーション合宿 ~共に生きるために~ 「国際協力とは? 国際教育とは?」そう考える前に、アジア学院の「流れ」に身を任せてみませんか? 土や緑や命に触れることによって「アジア」と出会い、「アジア」を感じ、「アジア」を発見することによって、2泊3日の合宿では、アジア学院に体験入学し、農業等の体験を共有しながら、本アカデミアでのあなたの課題や方向性の案地とします。 |
| ② | 4/22(金) | 世界の見方Ⅰ-アジアの農村から世界が見える 「南アジアの農村」という具体的な事例から、開発援助問題だけでなく、環境、人権、平和など様々な事例が見えてきます。ものごとを広い視野から見ることをここで学びます。 |
| ③ | 5/13(金) | 世界の見方Ⅱ-日本と世界のつながり 日本が世界最大の貿易黒字を記録しています。特に第三世界と呼ばれる国々への比重は重くなっています。ここでは1960年代からの日本の対外貿易の構造を検証しながら世界銀行、IMFとの関係において日本の近代化の中での問題点を明らかにします。 |
| ④ | 5/27(金) | 国際協力Ⅰ-国際協力とは 今日の国際協力に求められるものは何か。「開発」と「援助・協力」の歴史、理論的潮流を概観しながら、上記課題に迫ります。「開発とは何か」など異なる考え方が存在するテーマについてロールプレイングの手法で討論する予定です。 |
| ⑤ | 6/10(金) | 国際協力Ⅱ-具体的な事例を通して 国際協力が実際にどのように行われているかを、政府開発援助(ODA)やNGO活動の事例を通して学んでいきます。何人かの実践者を囲んで討論する予定です。 |
| ⑥ | 6/24(金) | 国際教育Ⅰ-国際教育とは 国際教育の理念、歴史的動向、現状、課題についての発展をもとに、質疑応答を過しながら、それらへの共通理解をめざします。 |
| ⑦ | 7/8(金) | 国際教育Ⅱ-その具体的な取り組み 国際教育活動に、学校で、地域社会で、家庭で取り組んでいる方々を迎えて、その具体的な事例を共有しながら、さらなる進展に向けての方策を話し合います。 |
| | 夏休み | 自主研究Ⅰ ~自分の足で歩いてみよう~ 第1回から第7回までをふまえて、個人の興味に従い、NGOや行政機関などを訪問調査することを夏休みのテーマにします。 |
| ⑧ | 9/16(金) | 自主研究Ⅱ ~歩いて見つけた私の発見~ 夏休みの間に個人で行った自主研究を発表し、共有します。自分自身が研究を通してどのような課題を発見したかということをも自分自身のメッセージを含めて発表してもらいます。 |
| ⑨ | 9/30(金) | 共働学習 入門Ⅰ ~人に働きかけるための視点~ 国際協力・教育を進める上で他者との共働は不可欠です。ボランティアとして、またボランティアと共に働く者としての視点を学び、具体的な参加型の活動の方向を探ります。第10回からの共働学習への導入とします。 |
| ⑩ | 10/14(金) | 共働学習 入門Ⅱ ~共に学び、共に行動することをめざして~ 第10回から第14回では、「グループ」という単位での学びを通して、人と人とが協力することの意味を体験することを目指します。本アカデミアならではの新しい試みです。受講者一人一人が、自分の関心の所在、動機を再確認し、第2回から第7回までに提示された国際協力・国際教育のテーマ・事例あるいは、夏休みの自主研究の成果から、自分自身のテーマを選びます。なお、各グループにはアドバイザーがつき、活動をサポートします。 |
| ⑪ | 10/28(金) | 共働学習 実践Ⅰ グループごとのテーマ設定に沿って、具体的な活動の進め方のヒントとなるガイダンスを受けます。 |
| ⑫ | 11/11(金) | 共働学習 実践Ⅱ-グループでの学びを通して① |
| ⑬ | 11/25(金) | 共働学習 実践Ⅱ-グループでの学びを通して② |
| ⑭ | 12/9(金) | 共働学習 実践Ⅱ-グループでの学びを通して③ |
| ⑮ | 1/21(土) ~22(日) | プレゼンテーション合宿 ~明日から行動するために~ 今のあなたと10ヶ月後のあなた。何が変わっているのでしょうか。今までは「違う」あなたが、きっとそこにいるでしょう。あなたにとっての国際協力、国際教育。その新たな課題や次なるステップが見つかるのかも知れません。最終回は1泊2日の合宿を行います。10ヶ月間にわたる学びやグループ活動の成果を発表し、それを明日からの行動へつなげたいと思います。 |

*時間はいずれも全曜日午後6時30分~8時30分です。(合宿は別)